

研究主題

自分の考えを筋道を立てて説明できる子の育成

「学んだことを活用する場を意識しての授業づくり」（国語・算数）

公開授業研究発表会

石川県教育委員会指定

「いしかわ学びの指針12か条推進校指定事業」

珠洲市教育委員会指定

「珠洲市『生きる力』をはぐくむ推進事業」



複合的に考える
単元まるごと活用



平成25年度
(研究指定2年目)

4号

平成25年10月29日（火）

珠洲市立飯田小学校

研究発表会にあたり

いしかわ学びの指針12か条推進校指定事業を受けて2年目となりました。

本事業の中心は「活用力を育成する」であります。そこで、本校では、1年目、根拠や筋道を明確にして自分の考えを表現することで、思考力・判断力・表現力を育む方向へと歩み出したわけです。具体的には、学び合いの中に三角ロジックを使って自分の考えを表現することを中心に、国語科に絞って研究を進めてきました。

2年目に入り、加えたこととして、大きく次の三点が挙げられます。

- (1)「国語科、算数科」の2教科で取り組む。
- (2)「言葉のスケッチ」の取り組みをする。
- (3)「単元まるごと活用」の授業をする。

ここでは、なぜ「単元まるごと活用」の授業を取り入れたかということについて述べさせていただきます。

「いしかわ学びの指針12か条の第3条」には、「知識や技能を活用・応用させる」
学んだことや身に付いたことを使い、活かす活動を行い、活用力・応用力を育成します。

とあります。もちろん、単元内の学習においてスモールステップでの既習活用場面は充分あります。しかし、全国学力学習状況調査B問題にみられる、つまりPISA型学力のような日常生活での課題、あるいは教科を横断する複合的な課題を扱うことは、困難であります。ラージステップでの活用ということを考え、「単元まるごと活用」という取り組みを導入しました。この「単元まるごと活用」の授業を進めるうちに芽生えた意識、それは、

- (1) 単元途中をしっかりとし、単元で何をおさえるかを常に意識する。
- (2) 既習事項と次学年とを照合し、今やっていることがどこに向かっているかを見通した授業をする。

わずか1時間ばかりの授業をするにあたり、前の学年までに何を学習したか、単元でねらう力がつけられるか、次の学年でどのように発展していくのかを見据えたうえでの大きな1時間であるという意識が出てきました。

そして、これまでの「いい授業」という認識の中に「将来、活用できる力をつけているか」という視点を加えて、授業をコーディネートするようになりました。

本日は、本校のささやかな研究の歩みをご覧いただいたことを職員一同、心より喜んでおります。明日からまた、皆様より頂いたご意見を参考にしながら、全職員、共通理解を図り、地道にこの研究を推進してまいりたいと思います。

結びに、本校の研究に温かいご指導とご支援を頂きました奥能登教育事務所、珠洲市教育委員会の皆さまに衷心より厚くお礼申し上げますとともに、今後とも、皆様方にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、誠に簡単ではありますが、お礼のご挨拶とさせていただきます。

謹白

平成25年10月29日

珠洲市立飯田小学校
校長 大宮 宏志

目 次

I	学校研究計画はどのように立てていますか？	1
II	学校研究・校内研修はどのようにしていますか？	3
III	「学力・学習を支える基盤づくり」として、どのようなことに取組んできましたか？	4
IV	活用力を高めるために、どのような取り組みをしていますか？	7
	・100文字「言葉のスケッチ」	
	・「単元まるごと活用」	
V	授業力向上のために行ったことは？	22
VI	学校研究の検証はどのように行っていますか？	26
VII	成果と課題	30

(添付資料)

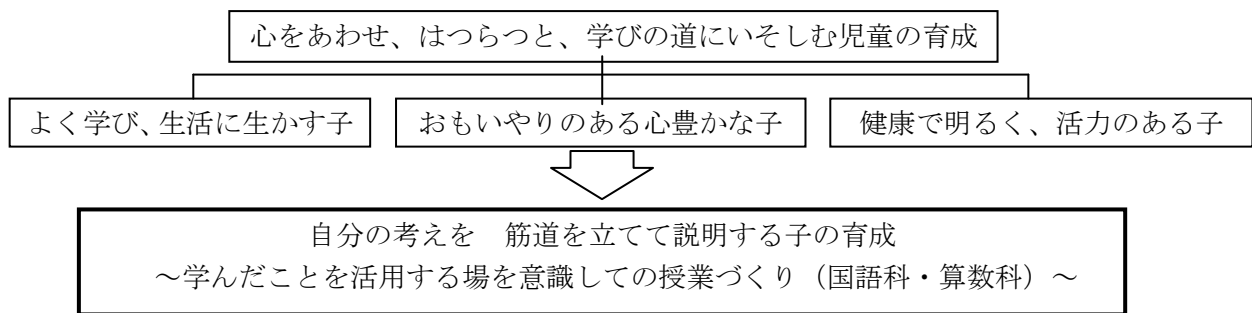
1	学校評価だより	資料1
2	学習を支えるつきたい力	資料2
3	指導の手立て〔これまでの実践 教師が意識すること〕 (平成24年度作成 国語科)(平成25年度作成 算数科)	資料3
4	国語科の系統表(物語文・説明文)の一部	資料4
5	算数科の系統表の一部	資料5
6	学習のてびき	資料6
7	「単元まるごと活用」の授業実践記録	資料7

I 学校研究計画はどのように立てていますか？

1 本校の研究の方針

- (1) 研究でめざす子ども像は、子ども、保護者、教師のいずれにとっても目標とする姿が明確であり、共有できる内容とする。（達成目標の共有化）
- (2) 「いしかわ学びの指針12か条」を重点化し、今年度は、国語科と算数科を中心に研究を進める。
- (3) 研究の検証を適切に行うとともに、子ども達の変容や身に付けたい力の成果が見える研究とする。
- (4) 学校と児童や保護者との間に、強い信頼関係を築き、学習習慣や家庭学習の充実を図る。
- (5) 学んだことの定着を図るための学習環境の整備を行う。
- (6) 校内研修は、計画的、組織的、継続的、発展的、徹底的、実践的であり、専門家としての意識の高揚と実践力を高める。

2 教育目標と研究主題



3 主題設定の理由

本校は、昨年度、県の「いしかわ学びの指針12カ条」推進事業指定校及び珠洲市「生きる力」をはぐくむ教育推進事業指定校として、国語科を中心に研究を進め、特に、単元を貫く言語活動を通して思考力や表現力を育成するため、自分の考えを説明する活動を授業の中に積極的に取り入れてきた。このことにより、子ども達に学習用語やキーワードを使いながら、筋道を立てて説明できる力が身につくにつつまる。

今年度は、国語科と算数科の2教科を中心に、根拠にもとづいて自分の考えを筋道を立てて説明できる力を育成する。また、「言葉のスケッチ」による語彙力、表現力の育成をはじめ、単元末に「単元まるごと活用」の授業を位置づけ、学んだことを生活や他の題材で活用する場、多面的・多角的な見方を広げる場として、より一層の学力向上を図りたいと考え、本研究主題を設定した。

4 めざす子ども像

- (1) 根拠をあげて説明できる子
- (2) 文章や資料の中の大事な言葉や数を落とさずに説明できる子
- (3) 学んだことを他の課題にも生かせる子

5 研究の視点

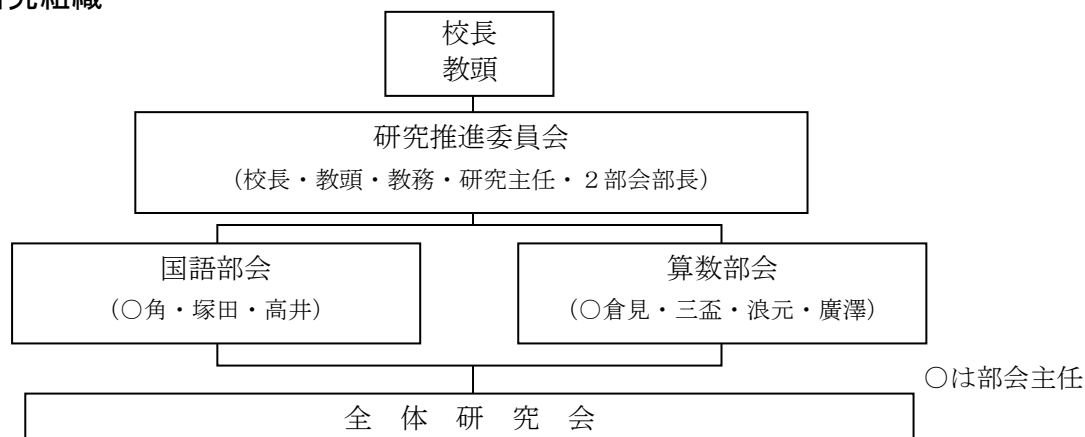
(1) 「活用力を高める授業づくり」に関すること

- ・用語やキーワードを習得させ、既習を生かして課題解決に取り組み、三角ロジックを用いた「根拠」や「筋道」を意識した思考論述の仕方や話型の指導の工夫
- ・身に付けたい力を明確にした系統性を生かした指導の進め方（系統表の作成）
- ・単元を貫く言語活動を位置づけた授業の構想（国語科）
- ・事実・方法・理由の的確な表現の吟味を図る学習指導（算数科）
- ・単元末における「単元まるごと活用力課題」の授業設定
- ・「言葉のスケッチ」による語彙力と主体的な言葉の活用力の育成

(2) 「学力・学習を支える基盤づくり」に関すること

- ・根拠をもとに考えを表すノートづくり
- ・相手意識・目的意識を持った「話す力」「聞く力」育成の指導改善（学習を支える身に付けさせたい力の目標設定）
- ・学び合いが視覚化できる板書の工夫
- ・スキルタイム、活用力タイム設定
- ・学年別全国学力学習状況調査算数A過去問プリント作成
- ・保護者と教師の共同で取り組み、検証する「教育行動計画書」による学習習慣・生活習慣の維持向上(家庭学習の手引き作成)
- ・読書環境の工夫（並行読書の推進）

6 研究組織



■研究推進委員会・・・研究計画立案 研究推進 連絡調整 渉外等

■国語部会……………○国語科の研究授業・模擬授業提案・指導形態・指導の工夫・評価の提案
 ○国語科の系統表を生かした授業づくり ○学力分析と改善
 ○スキルタイム企画 ○単元末の「単元まるごと活用」の設定
 ○「言葉のスケッチ」工夫・改善・補充学習の実施

■算数部会……………○算数科の研究授業・模擬授業提案・指導形態・指導の工夫・評価の提案
 ○算数科の系統表の作成 ○学力分析と改善
 ○学びの姿勢づくり（学習規律） ○単元末の「単元まるごと活用」設定
 ○家庭と連携した取組（家庭学習・生活習慣）

Ⅱ 学校研究・校内研修はどのようにしていますか？

1 校内研修の開催について

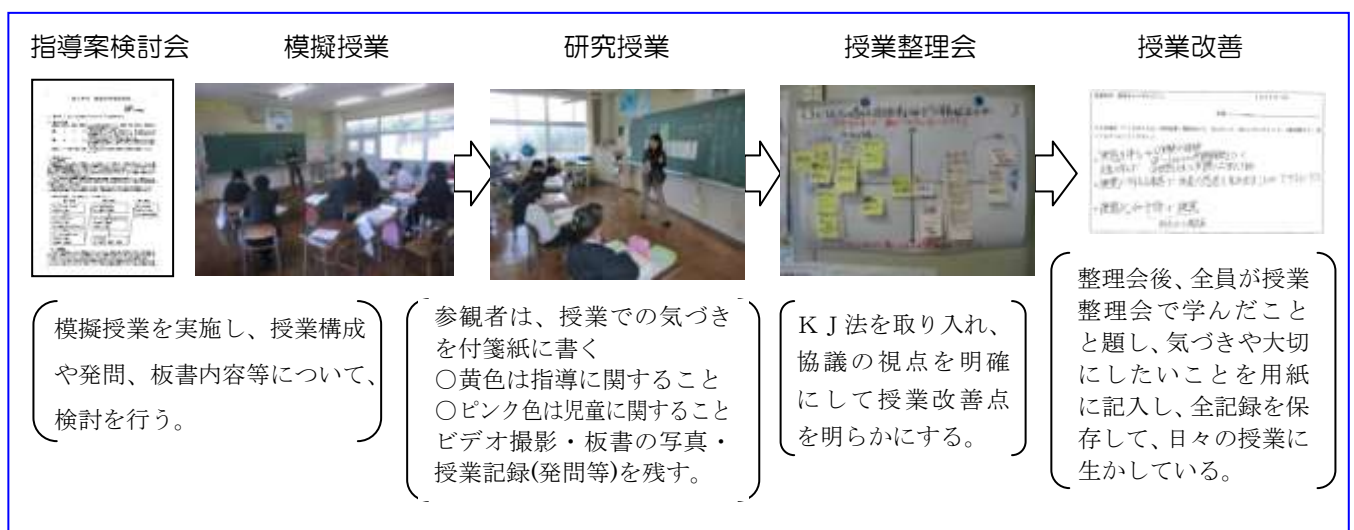
- (1) 毎週木曜日の放課後 16:05 から全体研修または部会を開く。
- (2) 全体会は、提案をもとに、ワークショップ型の研修スタイルで行う。
- (3) 研究二部会は、各主任が中心となって運営する。(結果を研究主任へ報告)
- (4) 研究二部会は、指導案検討など、研究授業にかかわる支援、記録、整理会の運営も担当する。

2 校内研修の方針について

- (1) 育てたい子ども像を明確にする。
- (2) 「いしかわ学びの指針 12 か条」を生かした学習について共通理解を図る。
- (3) 国語科・算数科の身に付けさせたい力の明確化と重点化を図る。
- (4) 国語科・算数科の学習の系統性とねらいに迫るための最も効果的な言語活動を選定する。
- (5) 研究の取組状況について、情報交換し、改善を図る。
- (6) 評価について研修を深める。
- (7) 校内研修サポート事業やアシスト訪問で、指導主事の助言を仰ぎ、研究を深める。
- (8) 各部会からの提案を受け、協議し、共通理解を図る。
- (9) 「リーフレット」「研究紀要」を作成し、啓発活動及び情報提供をする。
(ホームページにて、積極的に研究内容や作成資料等を公開する。)

3 授業研究について

- (1) 全員の授業公開と事前検討会・授業整理会を行い、授業力の向上に努める。
- (2) 事前検討会では、場面を限定して模擬授業を取り入れ、板書や使用する予定の教具や資料についても検討し合う。
- (3) 研究授業では、視点を決めて付箋にメモし、観点別に集約して協議する。(KJ 法的手法)
- (4) 研究授業終了後、整理会での話し合いを受けて、指導案に改善点を記入したり、修正したりして、奥能登スタンダード(飯田小編)に貼り付ける。
- (5) 日常の授業を参観し合う。感想や質問を通して、互いの授業力向上に役立てる。(ミニ参観)



2年間の学校研究の概要（主な取組み）

学校研究を進めるにあたって、具体的な実践に移すために、具体化・具現化・可視化を図っている。具体化・具現化・可視化することで、教職員の共通理解と目的や方法が共有化され、学びの連続性や組織的な授業改善につながるものと考え、研究を進めている。

Ⅲ 「学力・学習を支える基盤づくり」として、どのようなことに取組んできましたか？

1 学習規律や学びへの姿勢の共通理解を図る → 「学習を支えるつきたい力」の一覧表作成

学習への構えをはじめ、話の聞き方、発表や話し合いの仕方など、本校として大切にしていきたい学びへの姿勢を明確化し、職員と児童が共通理解のもと、日々の授業の中で、これらのことができるように取り組んでいる。

本校の研究主題である「自分の考えを筋道を立てて説明し、学び合いを充実させていくためには、この「学習を支えるつきたい力」は、かかせないものと考えている。

教師自身は、どの学年においても、この一覧表で自己評価しながら、学びを支える力として定着させてきている。

	目	目	目	目
学習の心構え	話を聞かずに、自分の考えを主張する。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。
問題解決の姿勢・仕方	友達や先生の話を聞いて、自分の考えを言う。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。
発表の仕方	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。
聞き方	話を聞かずに、自分の考えを主張する。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。
学び合いの話し合い	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。
学習のまとめノートの取り方	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。
書く	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。
学習での振り返り	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。	自分の考えを、相手に伝える。



既習事項や生活体験・教材と関連付けて、検討しようとしているかな？

友達の考えにつなげて、自分の考えを発表しようとしているかな？

しっかりとした挙手をしているかな？

2 基礎的・基本的な学力定着のための読書活動・スキルタイムの設定等

●朝の読書活動の取組（8:10～8:20）

目的：①豊かな思考・判断の基盤となる子どもの語彙力や読解力を高め、読書活動を活性化する。

②日常的な読書活動を通して、想像力や創造力の育成に向け、読書の質的な向上を図る。

内容：①8:10～8:20までの10分間を読書タイムとし、本に親しむ時間とする。

②第1・3木曜日の8:10から、ボランティアの方による読み聞かせを実施する。



ボランティア員による読み聞かせ



朝読書の様子



図書委員による読書集会

●「スキルタイム」の取組（13:50～14:00）

目的：前学年、前単元までに学習した基礎基本的な学力の向上を図る。

内容：①毎日5限前の13:50～14:00までの10分間に行う。

②全学年統一して、各曜日の内容に応じた取り組みを行う。

曜日	月	火	水	木	金
内容	視写タイム	言葉タイム	計算タイム	言葉のスケッチ	漢字タイム
ねらい	書く速さの向上	文法や語彙の使い方等の力の伸長	基礎的な計算力(速さ・正確さ)の伸長	感性と語彙を豊かにし、表現力や言語感覚を高める	漢字を書く・読む力の伸長
主な取組例	①教材「うつしまるくん」を使用して力を伸ばす。 ②スピードチェックで書く力を検証する。	①教材「ことばのきまり」を使用して力を伸ばす。 ②辞書のひきかたの指導、練習 ③ローマ字の学習 ④短文づくり	①既習の計算練習 ②100問テスト ③「すず計算博士コンテスト」の過去問題・練習問題	テーマを設定し、自分の考えが相手に伝わるように80～100字で(条件に応じて)書く。	①漢字の学習・練習 ②誤字が目立つ漢字の指導 ②「すず漢字コンテスト」の過去問題・練習問題

※11月は、すず漢字博士コンテスト、12月は、すず漢字博士コンテストの練習問題に取組み月間とする。



スキルタイムの様子



ワークを使つての視写



「言葉のスケッチ」の推敲場面

●全国・県学力調査問題の活用

算数A問題定着確認プリント

算数科の基礎基本の定着を図るために、平成19年度から平成25年度までの全国学力学習調査算数Aと石川県基礎学力調査に出題された問題を学年もしくは内容ごとに整理したプリントを作成した。これらを評価問題として単元末や補充に利用して、基礎基本の定着に生かしている。

飯田小学校 算数A問題定着確認プリント H19～25年度全国学力調査・県基礎学力調査問題より

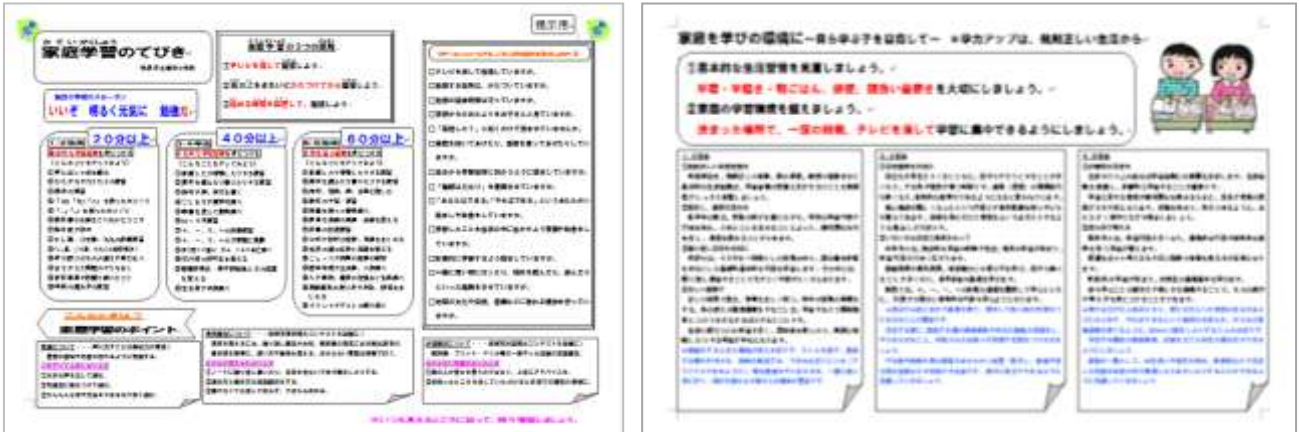
10	4年 分数の計算	名前	
1 次の計算をしなさい。		2 2Lのジュースを3等分すると、1つ分の量は何か。答えを分数で書きましょう。	
① $1 - \frac{5}{8}$		★全国22	
② $\frac{3}{7} + \frac{4}{7}$		3 $2\frac{2}{3}$ は、□と $\frac{2}{3}$ をあわせた数です。仮分数では、— と表します。	
③ $\frac{7}{6} - \frac{2}{6}$		4 2π の $\frac{1}{3}$ は、何πですか。	
④ $1\frac{2}{7} - \frac{4}{7}$		5 下の数直線に、 $\frac{7}{10}$ 、0.6、 $\frac{4}{5}$ を表します。□に記号や数を書きましょう。	
⑤ $\frac{1}{4} + \frac{2}{5}$		0 1 ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ セ	

3 家庭学習の習慣化の取り組み

○児童と家庭向けに「学習のてびき」を発行し、児童に家庭学習をするときの留意点、「自学」への取り組み方等を指導する。家庭学習時間を低学年20分、中学年40分、高学年60分を目安としている。保護者に対して、学習習慣の意義を啓発し、机に向かう支援をしてもらっている。

○家庭学習の手引きを保護者に配布し、児童の学習する場に貼ってもらう。

- ・4月の学級懇談会で「家庭学習のてびき」を説明する。
- ・自学ノートを持たせ、ノートの裏表紙等に貼る。自学は、個人に任せる自由勉強だけでなく、自分で学習することを考え、ノートにまとめる学習として利用する。(宿題に自学をだす)



4 基本的な生活習慣の確立への取組 → 学級指導・バランスアップカード・教育行動計画

- ・よりよい生活習慣の確立、食育の観点から、「早ね、早おき、朝ごはん」に取り組んでいる。特に、「早ね、早おき」(睡眠時間の確保)に重点を置いた指導をしている。
- ・「バランスアップカード」で児童の実態を把握し、実態に応じた保健指導・食育指導を行っている。
- ・4月の学級懇談会で、保護者と担任が話し合い、家庭での子ども達の様子や学級の様子について意見交換を行い、学級の子ども達に不足している体験や子ども達に身につけさせたい力等、家庭生活における学級の共通課題の洗い出しを行っている。そして、その中から1年かけて育んでいきたい目標を決め、学期ごとに検証しながら保護者と共に取り組んでいる教育行動計画を実施し、保護者と家庭生活における生活習慣の改善を図っている。

項目	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期	9学期	10学期	11学期	12学期
朝食の摂取状況												
朝食の摂取時間												
朝食の摂取量												
朝食の摂取回数												
朝食の摂取回数												

バランスアップカード



4月の学級懇談会での目標設定



教育行動計画書

(例) 平成25年度 4年生の教育行動計画の目標

- 家庭生活 ①「週に一回以上お手伝いをする。」を100%にします。
- 学び方 ②「メモを取りながら、話が聞けた」の自己評価率を85%以上にします。
- 学習の定着 ③漢字・計算テストの到達率を90%以上にします。

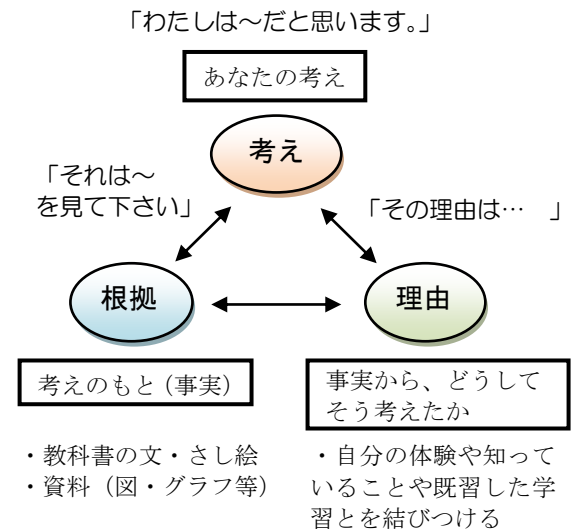
IV 活用力を高めるために、どのような取り組みをしていますか？

1 三角ロジックの手法を用いた説明

「〇〇ページの□行目を見て下さい。～と書いてありますね。このことから、私は、～と思います。その理由は△△だからです。」と、根拠・理由・自分の考え（三角形で伝えよう）を示して、相手に筋道を立てて説明できる子の育成をめざして研究を進めている。

筋道を立てて説明するためには、自分が体験したこと、学んで蓄積してきた知識等から、何が関連しているのか、それは説明に必要なか、それが最適なのかを判断し、相手に伝わるように表現する必要があり、このことが活用力の育成につながると考えている。

【三角形で伝えよう】



(1) 使わせたい用語やキーワード・既習事項の掲示

根拠として使わせたい用語やキーワードはいつでも使えるように教室に掲示した。これらを児童が生かせるように「今使わせたい用語」は黒板横に掲示し、いつでも板書上に移動して活用できるようにした。

(2) 学び合いが深まるための板書・ノート

板書は、全学年共通に、課題を赤、まとめを青で囲み、キーワードはオレンジで書くようにした。まとめは、キーワードを入れて児童にまとめさせた。また、自分の考えと友だちの考えを比較関連付けができるように「ネームプレート」の使用や「共通点、相違点」が見える板書づくりに取組んだ。

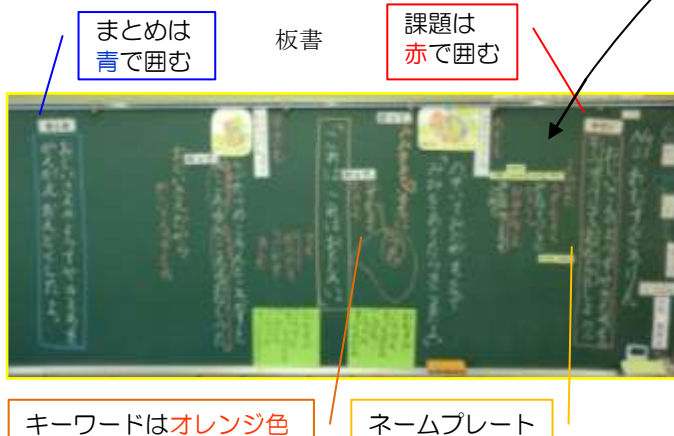
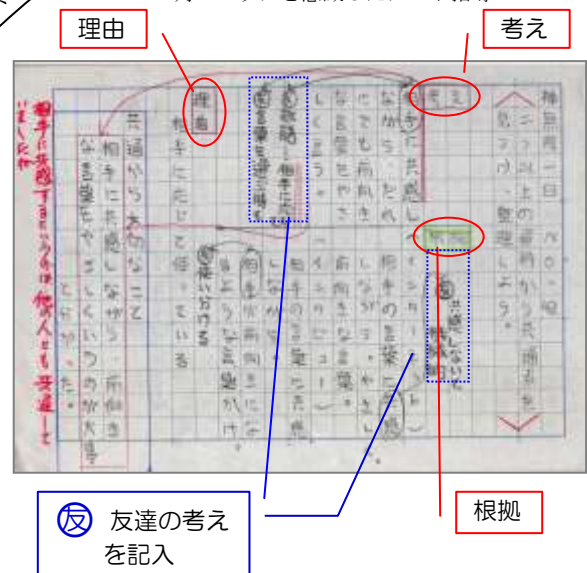
ノートは、「考え・根拠・理由」を明確に表せるように学年に応じた目標を決めて取組を行った。

《用語・キーワード》

黒板横 今使わせたい用語 教室横 既習の用語



三角ロジックを意識したノート指導



(3) 場面の設定

- ① 場面や意図、条件に則し、記述の中の事実や意見をとらえ、さらに既習の学習や経験、例をあげながら自分の考えを述べる場面の設定
- ② キーワードを見つける学習やキーワードを使って説明や報告、考えを述べる場面の設定
- ③ 多様な考えが出てくる学習活動を意図的に設定し、自分の考えの立場をはっきりさせたり、考えを変えた理由を説明したりする場面の設定

(4) 発問の工夫

読みの思考を促す発問には、大きく分けて3種類あると考えている。

発問A：答えは、探せば文中に、はっきりと示されているもの

発問B：答えは、文中にはっきりと示されていないが、文脈から推測したり、複数の読みを繋ぎ合わせたり、内容をまとめたりすることで見えてくるもの

発問C：絶対的な正解はなく、読み手の経験や知識を用いて、根拠を示しながら文章の内容や書きぶりについて自分の考えを述べたり検討したりするもの

この中のCの発問をすることで、三角ロジックで伝える必要性が出てくると考えた。そこで、中心発問に「あなたは、どう考えますか。あなただったら、どうする。」という発問を入れ、児童が自分の考えを三角形で伝えられるようにした。

(5) 「活用力タイム」の取組(13:50~14:10)

毎月23日(いしかわ読書の日)を含む週のスキルタイムを20分間にし、活用力を重視した学習および読書活動を行う。

	20日	21日	22日	23日	24日
4 5 6 年	国語 「活用力アップワーク」	国語 「活用力アップワーク」	算数 「活用力アップワーク」	学校読書の日 * ボランティアの方々・ 教師による読み聞かせ * 感想文を書く * 班長や学年代表 による図書紹介	算数 「活用力アップワーク」
1 2 3 年	国語 「こくごのがくしゅう」 「国語ドリル」	国語 「こくごのがくしゅう」 「国語ドリル」	算数 「さんすうの力」		算数 「さんすうの力」

※ 上記の取組を基本とするが、児童の実態に応じて学習内容を工夫する。

(例) 筋道をたてた文の書き方の学習 事実(根拠)と理由(判断)、考え(意見)を踏まえた話し方の学習



算数の活用力のワーク



担任による読み聞かせ



児童の「読書の日」の感想

ここからは、2 年目（平成 2 5 年度）の学校研究の取組を紹介致します。

短期 Plan(計画)→Do(実践)→Check(評価)→ Action(改善)サイクルに基づいた校内研修資料

Plan

4 月「言葉のスケッチ」についての職員の共通理解を図る

——「言葉のスケッチ」の取り組み——

「今日、給食で食べたリンゴを知らない友達にわかりやすく 1 0 0 文字以内で説明してください。」

「目に見える春、目に見えない春を様々な言葉を使って、1 0 0 文字以内に表現してみてください。」

日常生活にある様々な素材が登場します。

答えは一つではありません。問われているのは、あなたがどういう言葉を使って表現し、相手に思いや考えをわかりやすく伝えられるかということです。

1 目的

五感を働かせて物事を言葉で表現させることで、言葉に関する興味関心を持ち、子ども達の感性と語彙を豊かにし、表現力や言語感覚を高めることをねらいとする。

これまで、既習を生かして活用する活動を多く取り入れてきた。この「言葉のスケッチ」は、国語の時間の既習を生かすだけでなく、自らが表現したい言葉を見つけ出す意欲と、言葉や読書、国語辞書への関心を高め、自ら言葉の活用力をつけていくようにする。

また、継続的な取り組みによって、書き表すことへの抵抗感をなくすとともに、全学年で書き表した「言葉のスケッチ」を交流することで、表現の違いや言葉のよさを味わい、ものの見方、考え方、表現の仕方を豊かにしていく。

2 時間設定

毎週木曜日のスキルタイムに実施する。活用力タイムの時は、1 0 分間交流を行う。

①はじめの 2 分・・・考える時間（課題設定・構成）

（鉛筆を持たずに書こうとする内容を頭の中で構想していきます。）

②なかの 5 分・・・書く時間（記述）

（考えたことをもとに書いていきます。時間が来たら途中でもストップします。）

③おわりの 3 分・・・まとめの時間（推敲）

（文章を読み返す。間違いを正したり、より良い表現に書き直したりする。）

3 書かせる条件

①テーマを設定し、自分の考えが相手に伝わるように書く。（1 年生は、4・5 月は話す表現）

②8 0 字～1 0 0 字以内とする。（低学年 8 0 字・中学年 9 0 字・高学年 1 0 0 字）

③年間計画に従って、学年に応じて条件を付加する。

（3 文で書け・指示語（これは）接続語（次に、なぜかという）・NG ワード など）

④習った漢字は使うこと、丁寧に書くこととする。

Plan

4月「言葉のスケッチ」実施に向けての共通イメージづくり

4 評価

何文字書けたか、いくつ漢字を使ったか、多面的な視点から表現できたか、語彙の広がり（辞書や読書を生かす）など、自分の成長を見比べながら楽しく表現する力を伸ばしていけるように評価する。

5 テーマの設定

五感を使って、豊かに表現できる素材や題材を選ぶ。→しっかりと物を見る目も育てる。

【書かせる際の条件】 … 国語系統表から、適時、学年に応じたものを取り入れる。

第1週…全校同じ共通テーマ 第2～4週…学年に応じた学年テーマ とする。

月	4月	5月	6月	7月
テーマ	㊤「目覚まし時計」	㊤「くも」	㊤「うめぼし」	㊤「灯籠まつり」
	㊦さくら	㊦	㊦	㊦
	㊦ぬいぐるみ	㊦	㊦	㊦
	㊦本	㊦	㊦	㊦
条件	五感を働かせて書く ふたつを比べて書く	比喻「○○のような」 を入れる。	NGワード「すっぱい」	NGワード「楽しい」
月	8月	9月	10月	11月
テーマ	㊤「冷蔵庫」	㊤「見つけた秋」	㊤「ズック」	㊤「マラソン大会」
	㊦	㊦	㊦	㊦
	㊦	㊦	㊦	㊦
	㊦	㊦	㊦	㊦
条件	「このように」結論 になる1文を入れる		ズックになったつもりで書く	「ところが」を入れる
月	12月	1月	2月	3月
テーマ	㊤「こおり」	㊤「おもち」	㊤「春を見つけた」	㊤「卒業」
	㊦	㊦	㊦	㊦
	㊦	㊦	㊦	㊦
	㊦	㊦	㊦	㊦
条件		擬人法を入れる 「おもちのおなががふくらんだ。」	目に見える春・目に見えない春を入れる	倒置法をいれる 「○○した6年生」

6 交流

- (1) すべての学年の書いたものを1階職員室横の廊下のファイルに綴じて保存しながら掲示する。
- (2) 活用力タイムの日は、学級で書いたものを発表する。
- (3) 給食の時間に、学年テーマはクイズ形式でテーマを伏せて全校に紹介して、多面的な見方や表現の仕方に着目させ、その素材や情景がよりよく分かる効果的な表現を味わう交流を行う。



飯田 太郎

7 国語科における「書くこと」の身に付けさせたい内容 (書かせる条件に取り入れる)

	項目	書くことの身に付けたい内容
低 学 年	課題 取材	○経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集める。
	構成	○自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。
	記述	○主語と述語の関係に注意して書いている。 ○「は」「を」「へ」の使い方に気をつけて書いている。 ○音やようすを表すことばを使える。「バリバリ」「ひらひら」 ○詳しく表す言葉、指し示す言葉が使える。「大きい」「この」「その」 ○語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書いている。
中 学 年	課題 取材	○関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて書く上で必要な事柄を調べる。
	構成	○自分の考えが明確になるように、接続(累加・並列)や配列関係(具体的な事柄と抽象的な事柄、結論とその理由や根拠)などの段落相互の関係に注意して文章を構成する。
	記述	○中心(一番つたえたいこと)を考えて、書いている。 ○指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使っている。 ○紹介することを一つ一つまとめて書いている。「第一に」「第二に」 ○原因や理由などを挙げたり、分かりやすく説明するために事例など挙げたりしている。 ○修飾と被修飾との関係などを理解して書いている。
高 学 年	課題 取材	○考えたことなどから書くこと決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。
	構成	○自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えている。 (書き出しに読み手の関心を喚起する事例の配慮) (統括する内容の位置づけの工夫…頭括型・尾括型など)
	記述	○事実と感想、意見を区別し、それぞれの記述の仕方について工夫している。 ○文や文章には、いろいろな構成があることを理解して、書いている。 ○優れた表現を模範にして、書いている。 ○文のつながり(このように・さらに・けれども)や組み合わせの言葉(せまくるしい・持ち運ぶ・近寄る)などを使って書いている。 ○比喩や反復・倒置・引用・慣用句・ことわざなどを取り入れて、表現の工夫をしている。

事実と意見 …「目覚まし時計は、時間が来ると音が出る。」(事実)「私はその音が大嫌いだ」(意見)

比喩表現 …「雪のような○○」

擬人法 …「星がまばたきして、きれい。」

倒置法 …「力いっぱい引いている友達。」

列 挙 …「一つ目は○○。二つ目は○○。」

《物事や考えをつなぐときに使う言葉》(国語4年上教科書より)

■事柄を順番に言う時 …「初めに 次に 最後に」

■追加する時 …「それから また さらに」

■例示する時 …「例えば 例をあげると」

■前を受け、結論を言う時 …「だから このように このことから」

■前の事柄と対比することを言う時 …「いっぽう これに対して 反対に」

■前の事柄を原因・理由とする事柄が次に来る時 …「すると そして それに」

■前の事柄と逆になる事柄が次に来る時 …「しかし けれども ところが」

■理由を言う時 …「なぜかという わけは 理由は」



言葉のスケッチの中に、これらの表現が出てくるように条件を工夫。また、交流でこれらの表現文章を紹介。

Do

4月～6月「言葉のスケッチ」共通

8 共通実践

4月で確認したことをもとに、100文字「言葉のスケッチ」を実施した。校内研修で、各担任の書く際の「条件の出し方」などを話し合いながら進めてきている。

児童が書いた「言葉のスケッチ」

N03 4月26日 6年「えんぴつけずり」

N015 10月10日 6年「ズック」

言葉のスケッチ (NO. 3)

★あらわすもの
(えんぴつけずり)

6年

なまえ Aさん

でけるりやと比電手
けのののまきとで動
ずのののすいけと鉛
るおのの。ののの削
方そそそそそ削
がいいいいい削
便けけけけけ削
利どどどどど削
です手手手手手削

Nice

(条件) 2つのものを比べて、手動鉛筆削りの良さをアピールする。

NO.3-13 なし

言葉のスケッチ (NO. 15)

★あらわすもの
(ズック)

6年

なまえ Aさん

かるもたくのいにられ
人しはのひでてはく
はそはの前とほえく
そたははのいし雑
働かはいなくつにあ
くうてもな外むう
んはくもる言でもわ
たはくらまてもだ
はえまてまか

7なし

(条件) ズックになりきって、あなたに言いたいことを書く。

255の賞

6年 Aさんの「言葉のスケッチ」

Check

4月～6月「言葉のスケッチ」の評価

9 短期サイクルによる評価・改善 → 計画－実践－評価－改善

2カ月が過ぎ、書かれた内容について評価し、よりよい表現につなげるために、今後の指導の手だてを追加することとした。

(2ヶ月の子ども達のテーマ「うめぼし」記述を比較して)

個々に記述内容に工夫が見られるものの、2年～6年の書いた内容を見ると、「うめぼしは赤いです。しわしわがあります。ごはんの上において食べます。とてもおいしいです。わたしは、うめぼしがすき（きれい）です。」と、どの学年も同じ視点で、同じ書きぶりで書かれている。見た目の形や色から入ってしまい、同じ生活体験しかないためか、同じ内容になったと考えられる。

今後、語彙力や表現力を豊かにしていくためには、つけたい力に対しての「モデル提示」や「条件の設定」などを計画的、継続的に行っていく必要がある。

Action

6月 短期PDCAサイクルによる改善を行う

10 改善

(その１) 校長賞の新設

「言葉のスケッチ」コーナーの興味づけと、豊かな表現の喚起を目的として、校長賞を設けることとする。相手を意識した説得力のある表現、構成を工夫した表現、豊かな情緒表現などに対して、校長先生が校長賞シールを貼る。校長賞が貼られた「言葉のスケッチ」について、各学年で「校長先生が貼った理由・表現の工夫」をみんなで探り、今後の表現活動に生かしていくものとする。



（その２） 推敲の時間の確保

自己の書いたものを推敲する時間として3分設けたが、自己完結で終わっていたため、新たな視点を見つけ、豊かな表現への広がりには十分ではなかった。そこで、推敲の時間を確実に確保するために、2週間単位(1週目…記述の時間 2週目…推敲と交流の時間)として、取り組んでいくこととする。

《推敲》

赤

自分で推敲し、表現の
効果などを考え、直し
た部分。



青

相互評価で、読み手の立場から、もっとよい表現の仕方として、付け加えたもの



(その3) 計画的・意図的な・継続的な条件設定

より確かな表現力の育成のため、各学年で、学期ごとの付けたい力を明確にして、書く条件を計画的・意図的・継続的に行っていく。（3～4回、同じ条件で行うと、使える表現となっていく）

(1年生の取り組み例)

月	4月	5月	6月	7月
テーマ	㊦「目覚まし時計」	㊦「雷」	㊦「うめばし」(話)	㊦「燈籠山祭り」
	㊦「チューリップ」	㊦「雲」	㊦「うめばし」(書)	㊦「燈籠山祭り」
	㊦「カレーライス」	㊦「ショートケーキ」	㊦「雨」	㊦「プール」
		㊦「よもぎ団子」	㊦「雨」	
		㊦「くちばし」		
条件	・目、耳、鼻、手、舌で感じたことを書く。 ・テーマの言葉を全く知らない相手に教える。 ・「何がどうする。」(主語と述語)の文型で書く。	・比喻「～のような、～みたいな」を入れる。 ・テーマの言葉を全く知らない相手に教える。 ・「何がどうする。」(主語と述語)を入れて話す。 ・「は」「を」「へ」を使って話す。	・テーマの言葉から受ける印象が最も強い五感を表す言葉をNGワードとする。 ・「何がどうする。」(主語と述語)の文型で書く。 ・「は」「を」「へ」を正しく使って書く。	・テーマに関する意見とその理由を「わけ」を表す言葉を使って書く。 ・「何がどうする。」(主語と述語)の文型で書く。 ・「は」「を」「へ」を正しく使って書く。 ・句読点を正しく書く。
ねらい	【1学期】 ①主語と述語の関係に注意して書くことができる。 ②長音や拗音、促音、撥音や「は」「を」「へ」の使い方に気を付けて書くことができる。 ③ひらがなを正しく書くことができる。			